

知っていますか？

20歳からの子宮頸がん検診

近年、20・30代の若年層で増加傾向にある子宮頸がんについて紹介します

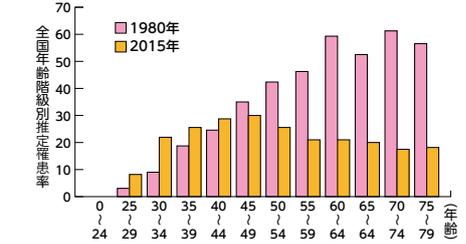
子宮頸がんってなに？

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス(HPV)の持続的な感染が主な原因で、子宮の入口である子宮頸部の表面の細胞にがんができる病気です。近年は若年層で増加傾向にあり、日本では年間約11,000人の女性がかかり、約3,000人が亡くなっています(2021年)。

初期の段階では、自覚症状がほとんどないため発見が遅れることもあり、進行するとこれから結婚や出産を迎える年代の女性や、幼い子どもを持つ母親にとっては深刻な問題となりえます。

一方、初期で見つければ高い確率で完治し、妊娠・出産も可能です。

子宮頸がん発病の若年化の傾向



(出典) 国立がん研究センターがん情報サービス【登録・統計】
※上皮内がんを含まない

子宮頸がん検診について～早期発見があなたの子宮を守ります～

市では、6月からがん検診が始まりました。対象のかたには、5月に検診受診券を発送しています。右記に該当するかたは子宮頸がん検診の無料クーポンが付いていますので、ご活用ください。

※がん検診受診の際は検診受診券が必要です。紛失された場合は健康増進課で再発行ができます。

平成6年4月2日～平成7年4月1日生まれのかた
HPV検診同時実施
平成16年4月2日～平成17年4月1日生まれのかた
個別検診のみ

はら ちあき

原千晶 氏の講演会(がんに関する講演会)を開催しました

6/7(土) コミュニティセンター

「大切にしたい自分の体～二度の子宮がんを経験して～」をテーマに、俳優・タレントの原千晶氏にご講演いただきました。

参加した市民からは、「包み隠さず当時の体験、感情をお話しされていて、自分の体をたいせつにすること、自分だけでなく家族や周りの人にも影響を与えること、がん検診や早期発見のたいせつさを改めて実感しました。」などの感想が寄せられました。



ヒトパピローマウイルス感染症(HPV)ワクチンを接種していても、
20歳を過ぎたら2年に1回、子宮頸がん検診を受けましょう

問合せ 健康増進課成人保健担当 ☎0480(92)1201

9月10日は「世界自殺予防デー」

9月10日～16日は「自殺予防週間」です

家族や仲間が悩んでいたり、様子がいつもと違うと感じたときは声をかけてみてください。あなたもゲートキーパーになれます。

※ゲートキーパーとは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のことです。

※本人を責めたり、安易に励ましたり相手の考えを否定することは避けましょう。

※ひとりで悩まず、相談機関や専門機関につなげましょう。

気づき(声かけ)

家族や仲間の変化に気づいて、声をかける

傾聴

本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける

ゲートキーパーの役割

つなぎ

早めに専門機関に相談するように情報を提供する

見守り

温かく寄り添いながら、焦らず、じっくりと見守る

ゲートキーパーがいることは、悩んでいる人の孤立を防ぎ、安心を与えます

～厚生労働省のホームページに相談先やゲートキーパーについて掲載されています～

「まもろうよこころ」▶



問合せ 健康増進課 ☎0480(92)1201